2015年4月9日付　日本水道新聞

丸亀市・フソウ　資機材供給等で支援

丸亀市（梶正治市長）とフソウ（上床隆明社長）四国支社は3月23日、丸亀市役所で「災害時等における上下水道復旧活動に関する協定」の調印式を行った。同市の災害協定締結は上下水道分野では3件目。同社としては21件目となる。

協定では、同市内で地震・風水害等の災害により上下水道施設が被災した際、復旧活動を円滑に遂行するため、同社が水道分野で取水施設から配水池までの一連の浄水施設の被害調査、および施設・配水管・応急給水所等での水道水の水質検査（濁度・色度・残留塩素）、取り扱う資機材の供給――を行うと定めている。

これらを円滑に推進するため、日ごろから情報交換を行うとともに、防災訓練の実施等にも努めていく。

調印式では同市の谷口長が立ち会う中、梶市長と同社の原川崇四国支社長が協定書に調印した。

調印後にあいさつした梶市長は「昨今の大災害では、自治体のみでのライフラインの復旧に限界があることが明らかになっている。全国規模で展開しているフソウの物流・調達等のノウハウを市民生活の復旧に活かす協定が結ばれ、感謝している」と謝意を示した。

原川支社長は「当社は昭和21年に丸亀市で創業した。協定を有効に機能させるため、丸亀市と連携をさらに深め、平時か

手前左が梶市長、同右が原川支社長

7事業体で新業務開始

ジェネッツ　伊豆市ではセンター開所

ジェネッツは1日、7事業体で新たな受託業務を開始した。事業体と業務内容は次の通り。

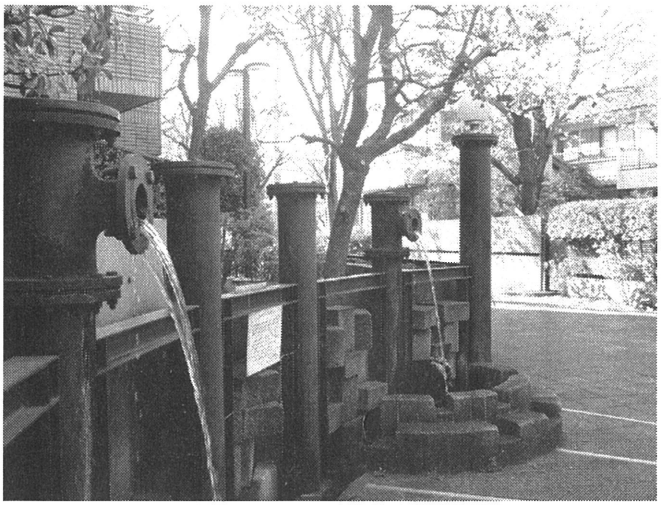
【伊豆市】水道料金等徴収業務委託（～平成32年3月末）、【奈良市】企業局営業業務包括業務委託（同）、【箕面市】上・下水道料金等の計量、徴収等に関する業務委託（同）、【福岡市】東部ブロック（東区・博多区）の水道料金等検針・徴収業務委託（同）、【大分市】水道局料金関連総合業務委託（～29年3月末）、【東京都】水道メーター定期検針・徴収事務等委託の区域拡大（千代田区

開所式での菊地社長（中央）、若菜常務（左）

の業務拡大（水道メーター検針業務と開閉栓業務等の追加、～30年3月末）

このうち伊豆市では1日、上下水道料金お客さまセンターの開所式を開き、同市の菊地豊市長、ジェネッツの若菜和也常務取締役東日本本部長らとともに、市民サービスのさらなる向上が期待されている。

あいさつした若菜常務は「約40年にわたり全国で培ったノウハウに加え、静岡県内6市1町での実績を踏まえ、市民から高く評価されるサービス向上の実現に邁進したい」と話した。また、検針員を含む従業員23人のうち、新規採用5人を含めた22人が同市在住者であることを紹介しながら、雇用創出による地元貢献、地域密着の姿勢を示した。


浄化用水を活用、親水空間を演出

東京都世田谷区　歩道に異形管オブジェ

異形管を使ったオブジェが街中に出現――。東京都世田谷区内の歩道に、異形管を使った防護柵や車止め、街路灯が立ち並んでいる。市民が普段目にすることがない水道管材を、意匠として活用する発想が新鮮。すでに、20年以上前に整備されたものだ。

オブジェが立ち並ぶのは世田谷区弦巻3丁目地先の弦巻ゴルフ練習場から区立中央図書館までの歩道で、延長は約250㍍に及ぶ。日本ダクタイル異形管工業会の調べによると、使用された異形管は▽両フランジ曲管（口径250㍉×90度）8個▽同（口径250㍉×45度）41個▽三フランジT字管（口径250㍉×口径100㍉）6個▽両フランジ長管（口径250㍉、切管）38本▽フランジふた（口径250㍉）約50個。

両フランジ曲管は歩道の防護柵や車止めに、長管は街路灯の柱に活用されている。歩道途中の広場スペースには長管が半円周状に並び、三フランジT字管からは水が流れている。浄化用水を利用し、壁泉として親水空間を演出している。

整備を担当した世田谷区土木事業担当部工事第一課によると、近隣に区立教育センタープラネタリウムがあることから、〝有機と無機の融合〟をコンセプトに、歩道の樹木に無機物の異形管を織り込んで景観を形づくったとのこと。街路灯は星をイメージしている。

整備したのは平成5年で、それから20年以上が経過し、なぜ水道の異形管が選ばれたのか、誰が着想したのかなど当時の詳しい経緯は不明だという。異形管は新品を使用、新たに塗装せず、出荷品をそのまま使用したとみられる。屋外で20年以上さらされているにもかかわらず、良好な状態を維持している。

近隣住民の憩いの場に

歩道に並ぶ異形管による防護柵